

2024年2月29日

各位

会社名 株式会社東京通信グループ
代表者名 代表取締役社長CEO 古屋 佑樹
(コード番号：7359 東証グロース市場)
問合せ先 取締役 C F O 赤堀 政彦
(TEL. 03-6452-4523)

2023年12月期通期決算に関する質疑応答集

投資家の皆様からお寄せいただいた主なお問い合わせとその回答につきまして、お知らせいたします。

記

Q1. 今後の成長戦略や方針を持っていますか？具体的な成長イメージを共有してほしいです。

当社グループは、「創造によって世界中のエモーショナルを刺激する」というパーパスの実現に向けて、「Digital Well-Being（デジタルウェルビーイング）」で、人々の心を豊かにするサービスを創造し続けて行くというビジョンを掲げております。

そのためには、我々がこれまでに蓄積してきた独自のノウハウやアセットを活用し、社会の新しい需要や変化を見極め、最先端の技術を活用した新規事業の開発やM&Aを積極的に推進することで、事業ポートフォリオの拡張性や成長性を強化させ、事業拡大を優先していく必要があると考えております。

2024年3月末には「事業計画及び成長可能性に関する事項」のアップデートを開示し、伴って方針説明会を実施させていただき予定です。詳細は後日改めてご案内いたします。

Q2. メディア事業において、カジュアルゲームアプリ及びハイパーカジュアルゲームアプリの好調な推移を継続するための戦略は何ですか？

「ヒットタイトルの再現性」と「市場のトレンド」を重視し、投下タイトル（市場にリリースするゲームアプリ）を計画・実行していくことで高い収益を狙っております。

そのために、これまで蓄積してきたヒットタイトルのノウハウを標準化することで一定程度のヒットタイトルの再現を図っております。また、職場環境を見直し、人材採用を強化することで、生産性の向上を図っております。さらに、これまでカジュアルゲームアプリやハイパーカジュアルゲームアプリがメインでしたが、配信するゲームアプリにおけるポートフォリオの多様化を進めております。例えば、主婦層や学生層に人気の「ポイ活ゲームアプリ」を配信したところ好評であるため、今期では一層注力し、国内外問わず新たなユーザー層の獲得を目指してまいります。

Q3. スマートフォンアプリ（カジュアルゲームアプリやハイパーカジュアルゲームアプリ等）は自社開発ですか？

はい、企画・開発タイトルリリース後の広告運用までグループ内で行っております。

Q4. 電話占いサービスがプラットフォーム事業の増収増益を牽引していますが、この事業セグメントでの競争優位性を強化するための戦略は何ですか？

まずは電話占いサービスの一層の品質向上と集客力の強化を目指しております。特に集客にはサービスの性質上、トレンド性が強く反映されるため、日頃からマーケティングを重視し、ユーザーの満足につながるような様々な施策を投じ、ブラッシュアップし続けることが競争優位性を強化していくポイントだと考えております。

昨今、国内の占いビジネスは、著名な占い師がテレビやSNSで活躍する等、占いブームが再燃しており、市場におけるユーザー層のシェアを獲得しやすい状況です。新規ユーザーにも満足していただけるように品質向上を目指しております。

Q5. 占いに関するリスクを抱えているように思いますが、どのようにお考えでしょうか？

占いビジネスは、怪しい印象を持たれやすい傾向であり、当社グループとしてはそれをリスクとして認識したうえで、長い年月で蓄積してきたノウハウを活かしてクリーンなサービス展開を徹底しております。

当社グループが展開するサービスは「相談」という範囲に限定しており、「相談」の域を超えないコミュニケーションを展開するため、問題がある鑑定方法や占いの種類等については当社グループサービスから排他し、必要に応じてサービスに関する説明機会を設けております。また、鑑定師のマネジメントを徹底することでユーザーとの適切なコミュニケーションを促し、ユーザーが安心して利用できるサービス環境と品質向上につなげております。

電話占いサービスは、成長性や収益性は非常に堅調なサービスなので、事業としては引き続き注力していく方針です。

Q6. 昨年立ち上げたエンタメテック事業について、今後の展開を教えてください。

エンタメテック事業では、エンターテインメント領域における事業活動を包括的に強化・推進しております。直近では「B4ND（ビヨンド）」というアーティストとファンの間におけるメッセージングアプリの自社開発やファンサイト構築等を手掛けております。

今後の展開としては、当社グループが参画している「IDOL3.0 PROJECT（秋元 康氏が総合プロデュースしている女性アイドル育成プロジェクト）」をはじめとするファンビジネスにおいて、これまで蓄積してきたネットワークやノウハウを活かして、ファンクラブ運営、握手会等のイベント企画運営及びIT領域の支援を担っており、それらに関連する収益によって成長していく見込みです。

Q7. B4ND のトップページでアーティスト名を五十音順の一覧や、ジャンル別に検索できるようにしたらユーザーが他のアーティストを探しやすくなるのではないのでしょうか？

ファンの皆様のあらゆる活用シーンを想定して、プロダクトのアップデートは常に検討しているものの、参画しているアーティスト達の芸能事務所の都合や環境を考慮し、現状の仕様にしております。ユーザーが「B4ND」内でアーティストを見つけ出すというより、ファンが「B4ND」に参画しているアーティストを目当てにアプリをインストールしていただく形になるため、ユーザーの集客が不要になっているというプラスの側面を持ち合わせております。

Q8. 2023 年 12 月期は、B4ND や OWN. 等の新規プロダクトの開発に注力したように思います。今後の展開を教えてください。

ご認識のとおり、2023 年 12 月期は新規プロダクト開発を含めて事業の種まきを多く行った 1 年になりました。2024 年は、これら事業を発展させ、多くの人たちの満足につながるようにプロダクトのアップデートに注力していきます。また、事業ポートフォリオを俯瞰的にとらえ、効率的な成長を促すため、資金や人材の最適配置を行ってまいります。

Q9. IDOL3.0 PROJECT で発行された暗号資産「Nippon Idol Token (以下、NIDT)」について、保有の考え方を教えてください。

発行時より当社グループが保有している NIDT は、新しいアイドルグループの組成及び活動のために発行され、ユーザーは NIDT の保有を通じてアイドル活動の応援及び支援を行うことができる付加価値のあるトークンです。こちらのプロジェクトに参画している当社グループは、中長期的な目線で保有しつつ適切な運用を模索しております。

Q10. IDOL3.0 PROJECT からデビューした、女性アイドルユニット「WHITE SCORPION (ホワイトスコーピオン)」に関してどのように関わっていますか？

NIDT 保有をしている他、WHITE SCORPION の活動における IT 領域（ファンサイト運営等）やアイドル活動の企画運営は当社グループが対応しております。

Q11. 株式会社アミザが主導する AMIZA<街づくり>の進捗状況を教えてください。

開発を継続しております。メタバースに関する市場のニーズが具体化され、今後お客様のニーズに対して貢献していくために、どのようなクライアントに提供をしていくかが重要だと考えております。なおメタバースに関するプロダクトは、当社グループが展開しているサービスとも親和性が高い可能性があるため、常に連携を検討しております。

Q12. M&A を精力的に行ったようですが、M&A の方向性を教えてください。

M&A の目的は大きく、「事業ドメインの拡張」及び「事業創造力の強化」です。2023 年 12 月期は、画像生成サービス「Picrew (ピクルー)」を展開する株式会社テトラクロマの株式を取得し、事業ドメインの拡張を実現いたしました。また、ベトナム拠点の TT TECH COMPANY LIMITED は、グループ内の開発環境構築に貢献し、事業創造力を高めております。

Q13. 目指している姿と現状についてどのようにお考えでしょうか？

目指している姿と現状に大きな乖離はあるものの、目指す方向性は全く変わっておりません。当社グループがデジタルビジネス・コングロマリットと標榜しているとおり、現在展開している事業ドメインだけではなく、多角的に広がった先にはそれぞれの事業が相互的に、総合的に好循環を生み出し大きな利益創出が実現すると考えております。

現時点では、何より事業拡大を優先しております。そのため、既存事業の成長に加え、新規事業への先行投資は緩めることなく継続し、現時点の事業規模に満足することなく成長を図っております。

Q14. 配当施策についてはどのようにお考えでしょうか？

現在配当は行っておりませんが、常に意識をしており適切なタイミングで株主の皆様へ利益を還元できるように検討しております。

Q15. 2024年2月22日に開示された「定款の一部変更に関するお知らせ」より、発行可能株式総数を増やすことの意図を教えてください。

エクイティを活用したあらゆる成長可能性を模索することが目的です。役員や従業員へのインセンティブの拡充、M&Aにおける株式交換及び資金調達等、あらゆる手段を機動的に選択できるように準備しております。ただし現在確定している政策はありません。

定款の一部変更については、第9回定時株主総会にて議決された後に反映され、株主の皆様にお知らせすべき事項が発生した場合は速やかに開示いたします。

Q16. IR活動についてどのような方針が教えてください。

皆様に当社グループの状況や方向性が即時にご理解いただけるよう、公平性を前提とした情報発信を強化していく考えです。当社グループは、社会の課題解決のために挑戦し続け、ビジネス展開を進めております。IRに限らず、会社として変化していく様子を皆様にどんどんお届けしていきたいと思っておりますので、引き続きご注目いただければと考えております。また、株主及び投資家の皆様からのフィードバックをいただく機会を一層増やしていき、改善を繰り返していきたいと考えております。お気づきや疑問に持たれることがあれば、当社グループ IR サイトよりお寄せいただければ幸いです。

■東京通信グループ問い合わせ先 : <https://tokyo-tsushin.com/inquiry/>

以上